|  |
| --- |
| ２０２０年度事業報告書  社会福祉法人全国盲ろう者協会 |

２０２０年度事業報告

Ⅰ．　はじめに

　２０２０年度は、大変残念ながら新型コロナウイルス感染症の問題に終始し、その対応に追われた１年でした。４月当初から、政府の緊急事態宣言発令に伴い、当協会の事業の多くが一時停止を余儀なくされ、事務所も事実上閉鎖となる状況が続きました。５月下旬に全都道府県の緊急事態宣言が解除されると、当協会の事業も少しずつ動き出しましたが、８月に開催を予定していた全国盲ろう者大会は、３密を避けるために中止せざるを得ず、海外との交流を伴う国際協力関係事業についても、年間を通して、ほぼ全面的に凍結状態となりました。ただ、その他の国内での各種研修事業などについては、オンライン化を図るなど、３密を避けて事業を実施する方向性を追求し、内容の大幅な見直しや実施時期の遅れなどはありましたが、何とか一定の実績を上げることが出来ました。また、この間、盲ろう者を中心として実施している各種事業の企画委員会やその他の会議のオンライン化も積極的に進めました。このように、コロナ禍の中で「やむなく取り入れた」オンライン会議方式については、一面では、盲ろう者の社会的活動の範囲を広げる新たなツールとしての可能性に気づかされたところもあります。

　また、当協会の重要な目標の一つである「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンター(仮称)」の開設に向けて、２０１８年度から実施してきた「盲ろう者の総合リハビリテーション・システム試行事業」や、２０１９年４月に設立されたＮＰＯ法人全国盲ろう児教育・支援協会との連携による新たな取り組みなどについても、２０２０年度は、事実上、一時凍結とせざるを得ませんでした。

以下に各事業についての実施状況をご報告します。

Ⅱ．２０２０年度実施事業の概要

1．厚生労働省委託事業Ⅰ（盲ろう者向け通訳者養成研修等事業）

　（1）盲ろう者関係生活相談等事業

ア．盲ろう者関係生活相談等事業

　　　 イ．広報誌発行事業

（2）盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修事業

（3）盲ろう者国際協力推進事業

(4）盲ろう者福祉啓発事業

(5) 盲ろう者情報機器活用訓練等促進事業

　　ア．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修事業

　　イ．コミュニケーション訓練個別訪問指導事業

　　ウ．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修事業

(6)　 盲ろう者向け通訳・介助員制度の施行準備事業

　　2. 厚生労働省委託事業Ⅱ　(盲ろう者の総合リハビリテーション・システム試行事業)

　（1）盲ろう者の総合リハビリテーション・システム試行事業

3．公益財団法人ＪＫＡ補助事業

　（1）第29回全国盲ろう者大会開催事業

4．公益財団法人鉄道弘済会補助事業

（1）海外盲ろう者体験文投稿プロジェクト事業

5. 日本財団助成事業

（1）アジアにおける盲ろう者団体ネットワークの構築事業

（2）盲ろう児者の医療アクセスと医療連携を支えるネットワーク構築事業

6．自主事業

（1）盲ろう者関係図書刊行事業

（2）盲ろう者向け情報機器等研究開発支援事業

Ⅲ．事業別実施状況

1．厚生労働省委託事業Ⅰ(盲ろう者向け通訳者養成研修等事業）

（1）盲ろう者関係生活相談等事業

ア．盲ろう者関係生活相談等事業

　盲ろう当事者相談員2名を中心として、全国各地の盲ろう当事者からの生活相談のほか、家族や通訳・介助員、福祉関係者等からのさまざまな相談や情報提供の要請に応えてきました。特に2020年度においては、新型コロナウイルス感染症の問題に関する相談窓口も設置しましたが、全般的に相談活動は例年並みで、電話、ファックス、メール等を通じて扱った相談件数は、１年間で、　　129件となっています。

イ．広報誌発行事業

わが国唯一の盲ろう関係専門誌『コミュニカ』を２回発行し、盲ろう者、支援者及び関係機関へ送付しました。

なお、2021年3月に発行した第62号では、コロナ禍への対応の一環として、「コロナ禍で変わった私の生活」という特集を組みました。

　　　第61号　　　　墨字版　2,600部　　点字版　455部

　　　第62号　　　　墨字版　2,600部　　点字版　455部

※希望者にはデイジー版ＣＤ(デジタル録音図書の国際標準規格)も提供

（2）盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業

盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修事業

　　盲ろう者向け通訳・介助員養成事業は、都道府県(指定都市・中核市を含む。以下同じ。)が行う地域生活支援事業の必須事業であり、厚生労働省から養成講習会の標準カリキュラムが示されています。当協会では、この標準カリキュラムに基づいて都道府県が行なう養成講習会を円滑に進めるため、養成講習会の指導者(講師)養成に特化した研修事業(中央研修)を行ってきましたが、2020年度は、初めてこれをオンライン方式で実施しました。オンライン方式では、実習(実技)の実施が難しく、また、盲ろう者をはじめ聴覚障害者、視覚障害者などの受講者のコミュニケーション保障にも大きな困難が伴いますが、一方では、従来の都内の会場を使用した４日間連続の研修とは異なって、全国各地からの参加のハードルが低くなった面もあり、盲ろう者などを含めた受講希望者は大幅に増加しました。2020年度は、研修期間中に受講者に自分の講義内容をビデオ撮影して提出させるなどの新たな手法も加えて、　1月30日（金）～2月28日（日）まで、断続的に4日間のオンライン研修を行いましたが、全国から受講者として、盲ろう者6人を含む28人が参加し、全員が本研修を修了しました。

（3）盲ろう者国際協力推進事業

盲ろう者国際協力推進事業は、世界盲ろう者連盟(ＷＦＤＢ)や盲ろう者インターナショナル(ＤＢＩ)などの国際組織及びその加盟各国と連携し、世界の盲ろう情報の収集と、わが国の情報を世界へ発信する目的を持っています。しかしながら、2020年度においては、世界的な新型コロナ感染症流行拡大の影響を受けて、国境をまたいでの人的交流は全く不可能となり、国際会議なども中止となったため、当協会の国際的な交流活動としては、国際組織や世界各国とのＥメールなどによる情報のやり取り程度にとどまらざるを得ませんでした。また、今後の本格的な交流活動の再開に備えて、わが国の盲ろう者向け通訳・介助技術を国外に伝えるためのテキストの翻訳作業などを進めました。

（4）盲ろう者福祉啓発事業

2020年度においては、これまでのように、各地に当協会の職員を派遣して、地元の友の会と連携して活発な啓発活動を行うことは困難であったため、各種のメディアなどを通しての盲ろう者(児)に関する啓発活動となりました。

（5）盲ろう者情報機器活用訓練等促進事業

ア．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修事業

　　コミュニケーションと情報の取得に大きな困難を抱える盲ろう者にとって、パソコン等の情報機器の利用技術を身につけることは極めて重要な意義を持っています。特に、他人との接触や外出などが厳しく制限されるコロナ禍の中では、その重要性は、ますます増大しています。しかしながら、一般的な障害者向けのパソコン教室などにおいては、盲ろう者の障害特性に応じた適正な指導を受けることは困難であることから、当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて、開拓的事業として盲ろう者向けパソコン指導者養成研修事業を開始し、2015年度からは、厚生労働省の委託事業として継続的に本事業を実施してきました。2020年度は、初めて、この研修をオンライン方式で実施しました。複雑な情報機器の操作方法などをオンラインで指導することには、なかなか困難な面もありますが、今回は、マン・ツー・マンによる指導を中心として、一定の指導経験のある方を対象とすることで、比較的円滑に研修を進めることができました。本研修は、3月6日(土)～7日(日)の2日間にわたって、新しいタイプのブレイルセンス(点字情報端末)の操作方法の指導を中心に行い、受講者は5人でしたが、これらの受講者は、今後、それぞれの地域において、盲ろう者向け情報機器講習会の講師や個別訪問指導の指導者として活動することが期待されます。

イ．コミュニケーション訓練個別訪問指導事業

盲ろうは希少な障害であり、盲ろう者は広い地域に散在していることなどから、移動にも大きな困難を抱える盲ろう者が情報機器の利用技術を身につけるためには、個別訪問指導が極めて有効な手法です。このため、当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて盲ろう者に対する情報機器の個別訪問指導事業を開始し、2015年度からは、厚生労働省の委託事業として本事業を実施してきました。2020年度は、コロナ禍に対応した重点事業として、これまでより事業の枠を拡大し、全国から募集した7人の盲ろう者に、点字情報端末や点字ディスプレイなどを貸与し、自宅への訪問指導を行ないました。また、2020年度には、この他に、過去の受講者の中でフォローアップの指導を希望する盲ろう者に対する訪問指導も実施しました。ただ、2021年1月に2回目の緊急事態宣言が発令されたことなどにより、都道府県間をまたぐ指導者の派遣が困難となり、事業の一部が積み残しとなってしまいました。

ウ．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修事業

　盲ろう者の社会参加を進めていくためには、各地域における盲ろう者友の会などの活動の活性化が極めて重要です。このため、当協会では、独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて盲ろう者地域団体のニューリーダー育成研修会を開始し、2015年度からは、厚生労働省の委託事業として継続的に同事業を実施してきました。しかしながら、2020年度の事業実施にあたり、これまで、全国から多数の盲ろう者を集め、グループ討議などを中心とした宿泊研修方式で実施してきた本事業を、コロナ禍への対応を踏まえてオンライン化することなどは、参加する盲ろう者の情報保障などの面で、相当に困難であることが分かりました。

　そこで、2020年度においては、本事業の継続実施に向けた第一ステップとして、全国の盲ろう者友の会などで活動している盲ろう者がオンライン方式で交流し、情報交換などを行う場を設定することとしました。これは、各地の盲ろう者や支援者に全国規模でのオンライン会議を経験してもらうことで、今後の団体の活動においてオンライン会議方式などを活用する端緒とするとともに、主催者側においても、多数の盲ろう者が参加するオンライン会議(盲ろう者のグループ討議など)開催のノウハウを蓄積することなどを狙ったものです。　事業の呼称も、暫定的に「全国盲ろう者団体ニューリーダー等オンライン会議体験会」として、1月16日(土)～17日(日)に開催し、全国の盲ろう者友の会から8人の盲ろう者が参加しました。参加者を２つのグループに分けて、各グループ毎に参加者の自己紹介や情報交換などを行いましたが、大きなトラブルなどもなく、参加した盲ろう者、支援者、主催者ともに大変貴重な経験を積むことが出来ました。

(6) 盲ろう者向け通訳・介助員制度の施行準備事業

　2018年度から、同行援護事業の枠組みを活用して盲ろう者の通訳・介助を行う新たな制度が施行されたことを踏まえ、この制度の普及・定着に向けて、これまで、全国各地の盲ろう者友の会や行政関係者などに対して、この制度に関する説明会などを行ってきました。2020年度においても、盲ろう者友の会などの地域団体が設置・運営している盲ろう者向けの同行援護事業所(4か所)の協力を得て、盲ろう者友の会の代表者などを対象に、盲ろう者向けの同行援護事業所の立ち上げに必要な準備、運営に関する実務等についての見学説明会を企画しましたが、残念ながら、２度にわたる政府の緊急事態宣言発令などにより、都道府県をまたぐ移動や他都道府県からの見学者の受け入れも困難となり、事実上、本事業は停止せざるを得ませんでした。

2．厚生労働省委託事業Ⅱ　(盲ろう者の総合リハビリテーション・システム試行事業)

（1）盲ろう者の総合リハビリテーション・システム試行事業

　本事業は、盲ろう者の特性に対応したリハビリテーション・システムの構築(日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンターの開設)を目指した先行的試行事業を実施するもので、児童部門においては、盲ろう児の保護者への専門相談や盲ろう児が利用している児童発達支援事業所への訪問指導など、成人部門においては、短期宿泊型の生活訓練事業などを予定していました。しかしながら、年度当初からのコロナ禍の中で、過去の事業利用者へのフォローアップなど一部の事業を除いて、新たな利用者への対応は、事実上、停止せざるを得ない状況となり、十分な成果を上げることはできませんでした。

3．公益財団法人ＪＫＡ補助事業

　（1）第29回全国盲ろう者大会開催事業

当協会の設立以来、平成23年度を除いて、毎年度実施されてきた全国盲ろう者大会は、2020年度は、８月に鳥取県米子市において開催する予定でしたが、コロナ禍の中で、残念ながら中止とせざるを得ませんでした。

例年、この大会には、盲ろう者や関係者など８００人を超える参加者がありますが、盲ろう者のコミュニケーションや移動には他者との接触や接近が避けられないこと、万一、盲ろう者が感染した場合には、病院その他の隔離施設などにおいて情報保障を行うことが極めて困難であること、盲ろう者のコミュニケーションの特性や情報機器の活用状況からオンライン開催は現実的でないこと、などを考慮すると、2020年度の開催中止は、やむを得ない判断と言わざるを得ません。しかしながら、全国の盲ろう者にとって、この大会は、極めて有意義であるとともに、年に一回の貴重な交流の機会として、大変楽しみにしているイベントでもあります。今後、新型コロナウイルス感染症が一定の収束をみた段階においては、感染リスクの低減に十分配慮しつつ、円滑に大会を開催できるよう、大会の開催方法などについて、引き続き検討を進めていきます。

4．公益財団法人鉄道弘済会補助事業

（1）海外盲ろう者体験文投稿プロジェクト事業

本事業は、公益財団法人鉄道弘済会の助成により実施してきた「全国盲ろう者体験文コンクール」を引き継ぎ、「アジアにおける盲ろう者団体のネットワーク構築事業」とも連携して、海外(アジア各国)の盲ろう者から体験文を募集する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行が世界的に拡大する中で、海外(アジア各国)の盲ろう者団体等との連絡・協議も困難となったことから、体験文の募集活動自体を見送らざるを得ませんでした。

5．日本財団助成事業

（1）アジアにおける盲ろう者団体のネットワーク構築事業

　　　2020年度は、5か年計画で進めている本事業の3年目として、第2回アジア盲ろう者団体ネットワーク会議を開催するとともに、モンゴルに盲ろう当事者を派遣して盲ろう者支援活動を行うことや、国内で国際協力活動に関する専門人材育成のための研修会開催などを予定していました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大により、アジア各国との人的交流はもとより、情報機器を利用した連絡・協議なども著しく困難となったことから、事実上、全ての事業が「凍結」状態となってしまいました。

なお、これらの「凍結」状態となった事業については、日本財団との協議により事業実施期間の延長(6か月)が認められたため、今後、新型コロナウイルス感染症の状況などを十分に見極めつつ、可能な範囲で事業の実施に努めていきます。

　（2）盲ろう児者の医療アクセスと医療連携を支えるネットワーク構築事業

　　　本事業は、国立病院機構東京医療センターと連携して、2019年度からの3か年事業として開始し、東京医療センターに医療情報窓口を設置し、医療施設のデータベースを開設するなど、盲ろう児者の医療ネットワーク構築に取り組んできました。2020年度においては、医療ネットワークの一層の拡充を図るとともに、「盲ろう児者の福祉と医療」と題するオンライン講習会などを実施しました。

6．自主事業

（1）盲ろう者関係図書刊行事業

「日本版ヘレン・ケラー・ナショナルセンター」開設に向けた検討を具体化していくためには、日本から海外への情報発信も重要であることから、2016年度から盲ろう者に関する日本の専門図書(「盲ろう者として生きて」著者　福島智)の英訳作業を進め、2018年度は、この英訳本を刊行して世界各国に頒布することを目的として、クラウドファンディングによる資金作りを行いました。2020年度においては、英訳本を刊行し、各国に頒布する予定でしたが、諸般の事情により刊行が遅れ、刊行・頒布は、2021年度内となる見込みです。

（2）盲ろう者向け情報機器等研究開発支援事業

当協会では、これまで様々な機会を捉えては、盲ろう者が手軽に利用できる情報機器等の研究開発を支援してきました。また、公益財団法人テクノエイド協会が行う「シーズ・ニーズマッチング交流会」にもオンラインで参加して、情報機器等の開発側とユーザー側のマッチングの促進に協力しました。

**２０２０年度　諸統計資料**

（２０２１年３月末現在）

**１．盲ろう者登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2015  (H27) | 2016  (H28) | 2017  (H29) | 2018  (H30) | 2019  (H31・R1) | 2020  （R2） |
| 年度末登録数 | 941 | 960 | 978 | 985 | 989 | 984 |
| 増減数 | +7 | +19 | +18 | +7 | +4 | -5 |

**２．重度盲ろう者登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
| 年度末登録数 | 732 | 743 | 745 | 772 | 779 | 773 |
| 増減数 | +1 | +11 | +2 | +27 | +7 | -6 |

**３．盲ろう者関係生活相談件数の推移**

（単位：件）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
| 方法 | 来所 | 6 | 18 | 11 | 9 | 8 | 0 |
| 電話 | 74 | 52 | 101 | 116 | 89 | 68 |
| 文書・FAX・ﾒｰﾙ等 | 52 | 64 | 64 | 65 | 37 | 61 |
| 内容 | 日常生活 | 24 | 35 | 22 | 23 | 17 | 24 |
| 社会保障制度 | 5 | 13 | 14 | 19 | 12 | 8 |
| 情報提供 | 58 | 63 | 85 | 75 | 50 | 57 |
| その他 | 45 | 23 | 55 | 73 | 55 | 40 |
| 合計 | | 132 | 134 | 176 | 190 | 134 | 129 |

**４．盲ろう者向け通訳・介助員登録数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 |
| 年度末登録数 | 3049 | 3078 | 3108 | 3144 | 3152 | 3131 |
| 増減数 | +32 | +29 | +30 | +36 | +8 | -21 |

**５．全国盲ろう者大会参加者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2015  第24回 | 2016  第25回 | 2017  第26回 | 2018  第27回 | 2019  第28回 | 2020  中止 |
| 開催場所 | 静岡県  静岡市 | 福岡県  北九州市 | 岩手県  花巻市 | 千葉県  千葉市 | 愛知県  名古屋市 |  |
| 参加者数 | 930 | 789 | 711 | 893 | 887 |  |

**６．盲ろう者向け通訳・介助員養成講習会指導者養成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2015  第25回 | 2016  第26回 | 2017  第27回 | 2018  第28回 | 2019  第29回 | 2020  第30回 |
| 開催場所 | 東京都  新宿区 | 東京都  新宿区 | 東京都  新宿区 | 東京都  新宿区 | 東京都  新宿区 | オンライン |
| 受講者数 | 2７ | 25 | 28 | ２９ | 25 | 28 |

**７．全国盲ろう者団体ニューリーダー育成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度回数 | 2015  第4回 | 2016  第5回 | 2017  第6回 | 2018  第7回 | 2019  第8回 | 2020  第9回 |
| 開催場所 | 東京都  江東区 | 千葉県  千葉市 | 千葉県  千葉市 | 千葉県  千葉市 | 千葉県  千葉市 | オンライン |
| 受講者数 | 16 | 14 | 11 | 12 | 13 | 8 |

（注）２０２０年度は「全国盲ろう者団体ニューリーダー等オンライン会議体験会」として実施。

**８．盲ろう者向け情報機器指導者養成研修会受講者数の推移**

（単位：人）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 年度・回数 | 2015  第8回 | 2016  第9回 | 2017  第10回 | 2018  第11回 | 2019  第12回 | 2020  第13回 |
| 開催場所 | 東京都  豊島区 | 東京都  豊島区 | 東京都  新宿区 | 東京都  新宿区 | 大阪府  大阪市 | オンライン |
| 受講者数 | 16 | 16 | 21 | 9 | 10 | 5 |

**９．盲ろう者地域団体（「盲ろう者友の会」等）未設置県**

|  |
| --- |
| 青森県(２０１７年４月に「青森県盲ろう者支援会」設立)　　　　　　　　（計１県） |